

1 調査の概要

(1) 調査の目的

- ①調布市立小・中学校の児童・生徒における学力・学習状況を把握し、施策の改善・充実に生かす。
- ②調布市立小・中学校教職員が、本調査の結果を踏まえ、授業改善に役立てる。

(2) 調査日と実施児童・生徒数

- ①令和6年4月18日(木)
- ②小学校20校 第6学年 1,789名
中学校8校 第3学年 1,373名

(3) 調査内容

- ①教科に関する調査
小学校：国語、算数
中学校：国語、数学
- ②質問紙調査
「学習意欲」「学習方法」「学習環境」「生活の諸側面」等に関する調査

2 調布市教育プラン(令和5年度～令和8年度)との関連

(1) 施策及び主な取組

- 施策2 【確かな学力の育成】 <主要事業 5 基礎的知識・技能、学習満足度の向上、学ぶ意欲の育成>
 主な取組 ○ 少人数・習熟度別指導による個に応じた指導の充実を通じた確かな学力の育成
 ○ 一人1台端末の効果的な活用に向けたICT環境の計画的な整備・活用
- 施策5 【魅力ある学校づくりの推進】 <主要事業 18 教職員の指導力・人権意識の向上>
 主な取組 ○ 学習指導要領に対応した「授業改善推進プラン」に基づく取組の推進

(2) 成果指標

全国学力・学習状況調査(国語・算数(数学))における東京都の平均正答率を上回った各科目の合計ポイント数	校種	R8目標値	R5	R6
		小学校	7pt	3pt
	中学校	7pt	3pt	7pt
「主体的・対話的に学習活動に取り組んだ」と考えた児童・生徒の割合	校種	R8目標値	R5	R6
	小学校	90%	76.7%	78.5%
	中学校	90%	78.1%	81.9%

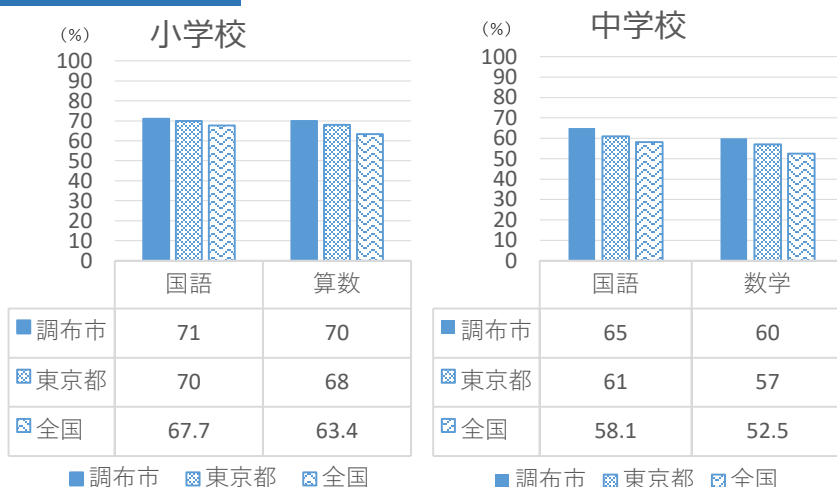
※成果指標の2項目については、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか」「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、語の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか」を合わせた平均値。

(3) 教育委員会の取組

- 「カリキュラム・マネジメント」の実現、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進
 - ・教科等横断的な視点に立った校内研究及び研修の推進
 - ・一人1台端末の効果的な活用
 - ・学習指導要領の着実な実施、徹底、指導
 - ・授業改善に向けた校内研究及び研究推進校等の成果の普及

3 調査結果概況

平均正答率



調布市の傾向

・国語、算数・数学ともに、平均正答率は全国及び東京都を上回っている。

国及び東京都と比べて差が大きかった内容の正答率

小学校	内容	出題の趣旨	市	都	国
国語	言葉の特徴や使い方の知・技	学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことができるかをみる	54.1 都+5.2pt 国+10.7pt	48.9	43.4
	話す・聞く 思・判・表	目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することができるかをみる	68.8 都+2.2pt 国+ 6.3pt	66.6	62.5
算数	変化と関係 知・技	速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察できるかをみる	80.4 都+2.1pt 国+10.4pt	78.3	70.0
	変化と関係 思・判・表	速さの意味について理解しているかをみる	64.6 都+2.4pt 国+10.5pt	62.2	54.1
中学校	内容	出題の趣旨	市	都	国
国語	読むこと 思・判・表	目的に応じて必要な情報に着目して要約することができるかをみる。	54.9 都+6.7pt 国+12.3pt	48.2	42.6
	話すこと・聞くこと 思・判・表	資料を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように話すことができるかをみる。	78.7 都+4.8pt 国+10.2pt	73.9	68.5
数学	図形 思・判・表	統合的・発展的に考え、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができるかをみる。	39.3 都+5.4pt 国+13.5pt	33.9	25.8
	数と式 思・判・表	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかをみる。	53.5 都+7.3pt 国+11.7pt	46.2	41.8

4 教科に関する調査から分かったこと

○ 正答率の高い問題

▲ 正答率の低い問題

□ 課題

◆ 指導改善のポイント

小学校 国語

	平均 正答率 (%)	中央値 [14問中] (問)	話す・ 聞く (%)	書くこと (%)	読むこと (%)	言葉 (%)	情報 (%)	言語文化 (%)
市	71	11	65.4	71.0	72.8	69.2	89.7	75.5
都	70	10	63.9	69.9	71.9	67.9	88.8	75.3
国	67.7	10	59.8	68.4	70.7	64.4	86.9	74.6

- 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる問題【知・技（情報の扱い方）】
▲資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる問題【思・判・表（話・聞）】

- 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することに課題がある。
◆相手や目的を一層意識し、どのような資料を用意すればよいかを考えることができるようにする指導の充実。
(例) 音声言語だけでは伝わりにくい場合などに資料を使いながら話すことや、聞き手の興味・関心等を予想し、どのような資料を用意すればよいかを考えることができるようにする指導を行う。
◆聞き手のうなずきや表情などにも注意しながら、聞き手の状況に応じて表現を工夫することに関する指導の充実。
(例) 聞き手のうなずきや表情などの反応にも目を向け、適切な時間や機会を判断し表現することのよさに気付かせていく指導を行う。

小学校 算数

	平均 正答率 (%)	中央値 [16問中] (問)	数と 計算 (%)	図形 (%)	変化と関 係 (%)	データ の活用 (%)
市	71	11	72.0	71.9	61.4	66.9
都	70	10	70.6	70.8	59.3	65.2
国	67.7	10	66.0	66.3	51.7	61.8

- 数量の関係を、□を用いた式に表すことができるかどうかをみる問題【知・技（数と計算）】
▲道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題【思・判・表（変化と関係）】

- 「データの活用」の問題は、データを読み取ることは比較的できているが、データを活用することに課題がある。
◆日常生活の場面のデータをグラフに表し、そのグラフから特徴や傾向を捉え、見いだしたことを表現できるようにする指導の充実。
(例) グラフのどの部分やどの数値を基に判断したかを、他者に分かるように伝えることができるようにするため、児童同士で伝え合う場面を設定する。

「中央値」…対象範囲内の全ての児童・生徒を得点順に並べたとき、ちょうど真ん中にいる児童・生徒の得点のこと。

中学校 国語

	平均 正答率 (%)	中央値 [15問中] (問)	話す・ 聞く (%)	書くこと (%)	読むこと (%)	言葉 (%)	情報 (%)	言語文化 (%)
市	65	10	68.1	71.6	54.1	66.3	67.6	78.5
都	61	9	62.9	67.9	50.8	61.6	62.9	75.7
国	58.1	9	58.8	65.3	47.9	59.2	59.6	75.6

- 目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる問題【思・判・表（書くこと）】
▲文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができるかどうかをみる問題【思・判・表（読むこと）】

- 「読むこと」の問題は、他の項目に比べ平均正答率が低い傾向にあり、文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈すること、目的に応じて必要な情報に着目して要約することに課題がある。
◆示されている図表などが、文章のどの部分と関連しているのかを確認するなどして、書き手の伝えたい内容をより正確に読み取ることができるようにする指導の充実。
(例) 図表がある場合とない場合を比較し、考えたことを説明し合うことで、筆者が図表などを用いた意図を考えることができるような指導を行う。
(例) 要約をする際には、目的を明確にした上で、必要な情報を十分に取り上げているか、自分がまとめた内容と元の文章の内容とに隔たりがないかなどを確認しながら、適切さや正確さを意識して要約することができるようにする指導を行う。

中学校 数学

	平均 正答率 (%)	中央値 [16問中] (問)	数と式 (%)	図形 (%)	関数 (%)	データ の活用 (%)
市	60	10	60.5	49.5	66.8	61.6
都	57	9	56.2	46.5	63.5	59.1
国	52.5	8	51.1	40.3	60.7	55.5

- 問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算ができるかどうかをみる問題【知・技（数と式）】
▲事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる問題【思・判・表（関数）】

- 一次関数を用いて、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。
◆表、式、グラフなどを用いて問題解決する場面を設定し、それらの用い方について数学的に説明できるようにする指導の充実。
(例) 表現が不十分な説明を取り上げて、問題解決の見通しを共有した場面などを振り返りながら十分な説明ができるようにする指導を行う。

参考資料：令和6年度全国学力・学習状況調査の結果（概要）（文部科学省）
令和6年度全国学力・学習状況調査 報告書（文部科学省）

5 質問紙調査の結果

〔主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する調査結果〕

■児童・生徒質問と教科の正答率のクロス集計結果

授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。		小学校			中学校		
		児童数の割合(%)	平均正答率(%)		生徒数の割合(%)	平均正答率(%)	
			国語(14問)	算数(16問)		国語(15問)	数学(16問)
1	当てはまる	31.1	78.6	77.5	30.1	72.2	70.1
2	どちらかといえば、当てはまる	51.0	70.5	69.1	55.7	64.3	59.3
3	どちらかといえば、当てはまらない	15.9	62.7	59.1	12.6	55.4	47.8
4	当てはまらない	2.0	58.0	53.0	1.3	48.2	35.7

学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。		小学校			中学校		
		児童数の割合(%)	平均正答率(%)		生徒数の割合(%)	平均正答率(%)	
			国語(14問)	算数(16問)		国語(15問)	数学(16問)
1	当てはまる	30.0	75.2	75.1	28.7	71.9	69.5
2	どちらかといえば、当てはまる	47.1	72.4	70.2	53.1	65.0	60.2
3	どちらかといえば、当てはまらない	19.0	65.1	62.3	15.3	56.5	49.8
4	当てはまらない	3.9	64.6	60.3	2.1	53.6	41.7

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。		小学校			中学校		
		児童数の割合(%)	平均正答率(%)		生徒数の割合(%)	平均正答率(%)	
			国語(14問)	算数(16問)		国語(15問)	数学(16問)
1	当てはまる	40.7	75.4	74.0	37.5	69.6	65.9
2	どちらかといえば、当てはまる	45.7	70.4	68.6	51.0	64.3	59.1
3	どちらかといえば、当てはまらない	9.5	63.7	61.1	9.1	58.0	51.6
4	当てはまらない	3.0	65.0	61.9	1.4	46.3	49.3
5	学級の友達との間で話し合う活動を行っていない	1.1	60.5	57.2	0.5	53.3	43.8

授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。		小学校			中学校		
		児童数の割合(%)	平均正答率(%)		生徒数の割合(%)	平均正答率(%)	
			国語(14問)	算数(16問)		国語(15問)	数学(16問)
1	当てはまる	30.9	77.5	76.9	28.8	71.6	70.2
2	どちらかといえば、当てはまる	47.1	71.3	69.4	52.2	64.9	59.1
3	どちらかといえば、当てはまらない	19.6	64.5	61.4	15.9	57.5	51.6
4	当てはまらない	2.4	57.0	54.3	2.5	51.1	45.5

◆調査結果のポイント及び授業改善に向けて

- どの質問項目においても、肯定的な回答をしている児童・生徒は教科の正答率が高い傾向にある。
- 課題解決に向けて自ら考える授業、振り返りを大切にされた授業、目的を明確にした対話を取り入れた授業、学んだことをアウトプットする機会が設定されている授業を行っていることが有効であると考えられる。

〔ICTを活用した学習に関する調査結果〕

■児童・生徒質問と教科の正答率のクロス集計結果

授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。		小学校			中学校		
		児童数の割合(%)	平均正答率(%)		生徒数の割合(%)	平均正答率(%)	
			国語(14問)	算数(16問)		国語(15問)	数学(16問)
1	ほぼ毎日	23.4	69.7	67.5	31.3	67.3	63.3
2	週3回以上	40.0	74.4	73.1	44.4	66.2	61.7
3	週1回以上	25.7	71.0	68.5	20.6	62.3	57.2
4	月1回以上	8.3	68.3	68.1	2.2	57.7	57.1
5	月1回未満	2.5	61.8	58.9	1.3	48.6	36.4

◆調査結果のポイント及び授業改善に向けて

- 授業でICTを使用している児童・生徒は教科の平均正答率が高い傾向にある。
- 目的に応じてICTを有効活用することで、学習効果を高めることができると考えられる。

〔個別最適な学び(個に応じた指導)・協働的な学びに関する調査結果〕

■児童・生徒質問と教科の正答率のクロス集計結果

授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか。		小学校			中学校		
		児童数の割合(%)	平均正答率(%)		生徒数の割合(%)	平均正答率(%)	
			国語(14問)	算数(16問)		国語(15問)	数学(16問)
1	当てはまる	30.4	76.5	74.7	24.4	67.9	64.5
2	どちらかといえば、当てはまる	50.0	70.0	68.8	58.7	66.0	61.4
3	どちらかといえば、当てはまらない	15.3	66.4	63.9	14.5	59.9	55.2
4	当てはまらない	4.3	73.7	68.3	1.8	55.6	39.6

授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。		小学校			中学校		
		児童数の割合(%)	平均正答率(%)		生徒数の割合(%)	平均正答率(%)	
			国語(14問)	算数(16問)		国語(15問)	数学(16問)
1	当てはまる	41.3	74.7	73.7	43.3	68.6	64.1
2	どちらかといえば、当てはまる	47.8	70.9	68.6	48.5	63.6	59.5
3	どちらかといえば、当てはまらない	8.3	61.9	59.7	6.2	57.3	49.2
4	当てはまらない	2.5	65.0	61.8	0.9	58.3	46.4

◆調査結果のポイント及び授業改善に向けて

- 授業が自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていると感じている児童・生徒が教科の正答率も高い傾向にある。他方、小学校では本質問に「当てはまらない」と回答した児童の正答率が高い傾向があることから、習熟度の高い児童が自分にあった教え方、教材、学習時間であると感じられていないことが考えられる。
- 友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると回答している児童・生徒は教科の正答率も高い傾向にある。
- 児童・生徒が自分に合った学び方ができるよう、指導の個別化及び学習の個性化を図り、個別最適な学びを実現できるようにする。
- 探究的な学習など、他者と協働しながら課題解決を行う授業を展開するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重できる集団作りを行うことも重要である。